

# 平成22年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年8月19日

## I. 概況

1. 売上高総額	1,468億円余
2. 前年同月比	-1.7% (29か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.1%(90.0%) : 非店頭+2.0%(10.0%) ( )内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	934,266㎡ (前年同月比:-1.3%)
6. 総従業員数	20,880人 (前年同月比:+11.9%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -6.5%、1-3月 -6.3%、2-4月 -5.4%、 3-5月 -4.0%、4-6月 -4.1%、5-7月 -3.0%

【参考】平成21年7月の売上高増減率は-13.4% (店舗数調整後)

### 【7月売上の特徴】

- (1) 東京地区では紳士服売上が28か月ぶりに前年比プラスとなった。クリアランスセールが全般的に好調で、客単価を押し上げるまとめ買いの傾向が見られたほか、気温上昇に伴うクールビズ需要の高まりから、ワイシャツ等の関連アイテムも良く動いた。
- (2) 家庭用品については5か月連続で前年の売上実績をクリアした。これは食器や調理器具など、身近なアイテムの購入で気分転換を図ろうという消費者志向の高まりを背景に、都内各店で品揃えの強化が進められた結果、好循環が生まれていると分析できる。
- (3) 中元商戦の動向は、東京地区においても全国同様に6月前半戦の不振を7月後半戦で盛り返し、期間合計ではほぼ前年並みというパターンで推移した。具体的には、限定性・希少性の高い商材が好調であったほか、自家需要購入の比率も引き続き伸びている。
- (4) 梅雨明け以降の猛暑により好調に推移したアイテムとしては、「ゆかた」「水着」「帽子」「機能性肌着」「サンダル」「日傘」「サングラス」「UV化粧品」「冷感寝具」などのほか、食料品では「素麺」「ウナギ」なども報告されている。紫外線対策・熱中症対策への関心の高まりがあるほか、ゆかたについては再びブームの兆しが見られる。

### 【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
  - ①増加した: 7店、②変化なし: 8店、③減少した: 4店、④不明: 3店
- (3) 7月歳時記 (夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み) の売上 (同上)
  - ①増加した: 1店、②変化なし: 7店、③減少した: 5店、④不明: 9店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
  - ①増加する: 3店、②変化なし: 12店、③減少する: 4店、④不明: 3店

## 東京地区百貨店 売上高速報 2010年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
<b>総 額</b>	<b>146,862,007</b>	<b>100.0</b>	<b>-1.7</b>
紳士服・洋品	10,938,989	7.4	0.7
婦人服・洋品	31,927,426	21.7	-5.3
子供服・洋品	2,376,027	1.6	-4.8
その他衣料品	3,383,225	2.3	-8.1
<b>衣 料 品</b>	<b>48,625,667</b>	<b>33.1</b>	<b>-4.2</b>
身のまわり品	19,359,841	13.2	-2.2
化粧品	6,757,307	4.6	-0.8
美術・宝飾・貴金属	6,357,024	4.3	-9.7
その他雑貨	6,729,289	4.6	-6.1
<b>雑 貨</b>	<b>19,843,620</b>	<b>13.5</b>	<b>-5.6</b>
家 具	2,311,198	1.6	-6.3
家 電	611,003	0.4	10.5
その他家庭用品	4,776,922	3.3	11.3
<b>家 庭 用 品</b>	<b>7,699,123</b>	<b>5.2</b>	<b>5.3</b>
生 鮮 食 品	6,317,372	4.3	0.2
菓 子	10,608,722	7.2	-1.0
惣 菜	7,305,269	5.0	-6.4
その他食料品	17,280,284	11.8	2.1
<b>食 料 品</b>	<b>41,511,647</b>	<b>28.3</b>	<b>-0.6</b>
食 堂 喫 茶	3,467,305	2.4	-11.4
サ ー ビ ス	2,274,074	1.5	11.8
そ の 他	4,080,730	2.8	43.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。  
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	8,489,089 千円	47.5
従 業 員 数	20,880 人	11.9
店 舗 面 積	934,266 m <sup>2</sup>	-1.3

  

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

## II. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が5か月連続のプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。家電が2か月連続のプラスとなり、紳士服・洋品が28か月ぶり、その他家庭用品が2か月ぶり、生鮮食品、その他食料品が3か月ぶりにプラスとなった。

### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	-1.7	—	29か月連続マイナス
紳士服・洋品	0.7	0.0	28か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-5.3	-1.2	24か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.8	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-8.1	-0.2	27か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-4.2	-1.4	24か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	-2.2	-0.3	28か月連続マイナス
化粧品	-0.8	0.0	20か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-9.7	-0.5	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.1	-0.3	26か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	-5.6	-0.8	27か月連続マイナス
家具	-6.3	-0.1	2か月連続マイナス
家電	10.5	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	11.3	0.3	2か月ぶりプラス
<b>家庭用品</b>	5.3	0.3	5か月連続プラス
生鮮食品	0.2	0.0	3か月ぶりプラス*
菓子	-1.0	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-6.4	-0.3	28か月連続マイナス*
その他食料品	2.1	0.2	3か月ぶりプラス*
<b>食料品</b>	-0.6	-0.2	22か月連続マイナス
<b>食堂喫茶</b>	-11.4	-0.3	21か月連続マイナス
<b>サービス</b>	11.8	0.2	4か月連続プラス
<b>その他</b>	43.7	0.8	4か月連続プラス
<b>商品券</b>	47.5	1.8	12か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>